

がんセンターたより

緩和ケア週間 2017

2017年10月2日～10月6日、「緩和ケア週間」を開催いたしました。このイベントは、緩和ケアは終末期だけにうけるケアではなく、“がんと診断された時からうけられる、体と心のつらさを和らげるケア”ということを知っていただきたく企画をしました。オレンジバルーンは、緩和ケア啓発のシンボルマークです。院内にはシンボルカラーであるオレンジ色の装飾をいたしました。昨年に続き第2回となる今回は、病院職員が記載した患者さんへの応援メッセージを掲示いたしました。患者さんやご家族のみなさまから、「メッセージの言葉が心にしみて頑張ってみようと思いました。」「オレンジ色の装飾で病院が明るく安心させられます。」とのお言葉をいただきました。また、期間中、様々なイベントの開催とポスター掲示をしました。

ポスター掲示では「がんと闘う薬膳レシピ」をご紹介しましたところ、ご好評いただきました。一つ紹介をさせていただきます。

次年度も、“緩和ケア”につながるような企画を考えます。(緩和ケアセンター ジェネラルマネージャー 古矢尚子)

神奈川県立がんセンター
緩和ケア週間
2017年10月2日(月)～6日(金)

緩和ケアはがんと診断された時から受けられます
病気に伴う、からだの心のつらさを和らげる、それが「緩和ケア」です

- 10/2 10:00～12:00 「在宅療養相談CAFE」(個別相談)
～我が家で療養の心配をしてみませんか?～
場所: 1階会計前 情報コーナー
- 10/3 10:00～11:00 「おくすり相談会」(個別相談)
～お薬の疑問、疑問などもご相談ください～
場所: 1階 ホスピタルストリート
- 10/3 11:00～12:00 「お仕事とお金と治療」
社会保険労務士、医療ソーシャルワーカーがお話しします
場所: 1階会計前 情報コーナー
- 10/4 10:00～11:00 「こころの緩和ケア」(45分のお話と体験です。途中参加・退室可)
～ストレスをためないつと、リラクゼーション～
場所: 1階会計前 情報コーナー
- 10/5 10:00～13:00 アロマセラピーとヨガを取り入れたセルフケア
～ご自身の呼吸とつながりながら、心身の健康を自分自身で～
場所: 1階会計前 情報コーナー
- 10/5 14:00～14:30 「ミニコンサート」
～ピアノ演奏、歌唱、お話し～
場所: 2階 ラウンジ
- 10/6 14:00～15:00 「来て!見て!感じて!リハビリテーションセンター」
～PT・OT・STとご一緒に? リハビリの現場がわかります～
場所: 2階リハビリ室(エスカレーターを上って右手すぐ)



オレンジ色に装飾した正面玄関



応援メッセージ

身近な食材を使った簡単レシピ
～抵抗力をつけるビタミン摂取を考慮した食事の工夫～

かぼちゃグラタン

10分



《材料(1人分)》

- ・ 冷凍かぼちゃ 100g
- ・ 冷凍ブロッコリー 30g
- ・ たらこソース(パスタ用) 1袋
- ・ マヨネーズ 小さじ1
- ・ とろけるチーズ 1枚

《作り方》

- ①お皿にかぼちゃの皮を下にして並べ、電子レンジ(600W)で2分加熱する。
- ②①のかぼちゃの隙間にブロッコリーを並べる。
- ③たらこソース、マヨネーズを和えておく。
- ④③を②の上にかけて、チーズを上にする。
- ⑤電子レンジ(600W)で2分加熱する。

《栄養量(1人分)》
 エネルギー 311kcal
 蛋白質 11.8g
 脂質 19.0g
 炭水化物 24.3g
 ビタミンA 410μg
 ビタミンC 79mg
 塩分 2.2g

レシピの
栄養&美味
ポイント♪

包丁を使わないお手軽レシピです。
抵抗力をつけるビタミンA・C摂取を考慮しました。
かぼちゃの薬膳ポイント♪
胃の働きを助け、体を温め、疲労を回復します。風邪予防にも有効と言われています。



第 47 回世界外科学会議 (WCS)

乳腺内分泌外科 山崎 春彦

学 会 報 告

American Association of Physicists in Medicine (AAPM) Annual Meeting and Exhibition (AAPM)

放射線治療品質保証室 楠 輝文

8月13日から17日までスイスのバーゼルで開催された第47回世界外科学会議(World Congress of Surgery)に参加させていただき、「The risk factor of Nivolumab-induced Thyroid dysfunction」というタイトルで発表させていただきました。原稿は何とか暗記して発表できましたが、質疑応答はかなり課題が残る結果となりました。世界へ情報を発信するためにも英語力は不可欠だとあらためて感じました。バーゼルはスイスの北西に位置しフランス、ドイツと接していて3カ国を徒歩で行き来



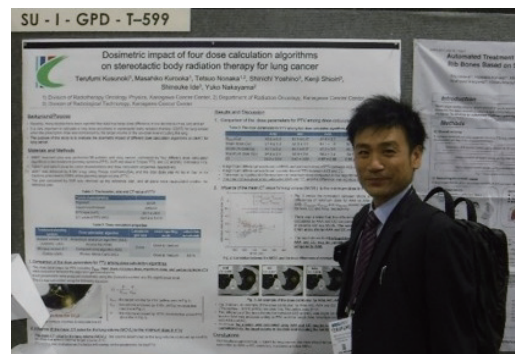
できます。街中をライン川が流れており地元の人たちが川岸

で日光浴、時には泳いでおりとても気持ちよさそうでした。学会が企画してくれたディナークルーズではバーゼルの夜景をみながらライン川を下り、日本の高名な先生だけでなく海外の先生とも接する機会が得られ非常に有意義な時間を過ごすことができました。このような貴重な経験ができたのも、豊富な症例数をもつがんセンターに所属していたからだと思います。ありがとうございました。

7月30日から8月3日にかけて、アメリカのコロラドコンベンショナルセンターで開催されたAmerican Association of Physicists in Medicine (AAPM) Annual Meeting and Exhibitionに参加してきました。あまり聞き慣れない学会かと思いますが、毎年一回、アメリカ国内で開催される医学物理学学会の事で、放射線治療に関する最新機器やソフトウェアの展示も開催されています。

私は「Dosimetric impact of four dose calculation algorithms on stereotactic body radiation therapy for lung cancer」という演題でポスター発表をしてきました。初めての国際学会で緊張しましたが、最新機器や海外の医学物理の動向に触れる事ができ、この経験を今後の業務に活かせればと思います。

最後になりますが、業務のお忙しい中、出張を快諾して頂いた野中部長はじめ、放射線治療スタッフの皆様に心から感謝申し上げます。



ヨーロッパ臨床腫瘍学会 (ESMO)

免疫療法科 和田 聡

学 会 報 告

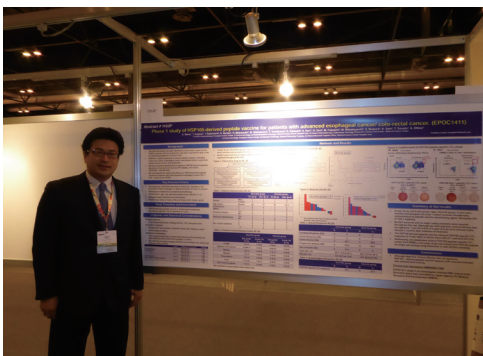
European Organisation for Research and Treatment of Cancer (EORTC)

レジデント 片岡 幸三

2017年9月8日から9月12日まで「ヨーロッパ臨床腫瘍学会 (ESMO)」がスペイン・マドリードで開催され、参加させて頂きましたのでご報告致します。

今年度の本学会には、131カ国からがんの診断・治療に関係する臨床医・研究者・企業など約2万4000人が集いました。今回、前年より13%以上多い3260の演題が投稿され、1736演題が採択されました。さらに発表と同時に、世界の一流誌である『The New England Journal of Medicine』に4論文、『Annals of Oncology』に3論文、『Lancet Oncology』に1論文が掲載されました。「米国臨床腫瘍学会 (ASCO)」に次ぐ、世界第2位の規模のがんの診断・治療に関する学術集会の印象をあらためて実感した次第です。私は国立がん研究センター東病院とのがん免疫療法共同医師主導治験のPhase I結果を僭越ながら報告させて頂きました。今回参加させて頂き実感したのががん免疫療法の確実な浸透です。免疫チェックポイント阻害剤を絡めた臨床試験は優に1000を超え、本学会でも特に併用療法について数多く報告されました。また、米国では肝細胞がん、胃がんへの適応拡大も承認され、がん免疫療法は確実にがん治療の核となってきています。

この度はこのような貴重な経験をさせて頂きました事に感謝申し上げます。



去る10/27-28にEORTC(European Organisation for Research and Treatment of Cancer) GI (Gastrointestinal) Group 班 会 議 が、London の Windsor Castle 内の St Georges House で開催され、参加した。会議において、EORTC と

JCOG の共同試験であり、当院が日本側の代表を務める大腸癌肝転移消



Group meeting dinner 会場にて

失後病変に対する EORTC1527/JCOG1609INT (DREAM 試験) の進捗についてのプレゼンを行った。また、他にも EORTC/JCOG とで協議を続けている胃がん肝転移の project についての Discussion も行った。また、10/29-30 には Brussels にある EORTC headquarter を訪問し、DREAM 試験の問題点、そして今後の進め方などについて議論を行った。12/1-2 にかけて行われる JCOG-EORTC symposium の打ち合わせについても行った。

国際共同試験の必要性が年々高まっており、企業主導の国際共同試験の数は近年増加傾向であるものの、医師主導の国際共同試験は実施基盤が整っておらず、特にアカデミア主導、日本主導の国際共同試験の数は依然としてほとんどないのが現状である。このような状況を打破するためには、このような国際会議に、ただの audience ではなく積極的に参加し Discussion を重ねていくことが、考え方の違いを理解し、すり合わせていく上で基本かつ重要なことであると思われる。

2017.
9.23(土)
開催

パープルリボンセミナー in 神奈川 2017
膵臓がん市民公開講座
「膵臓がん治療の最前線」

膵臓がん患者支援団体が、がん拠点病院と共催で、膵臓がん啓発を目的に各地で開催されているセミナーが、今年は当センターで開催されました。200名の募集定員に対し、参加者は205名となり、関心の深さがうかがえました。NPO法人パンキャンジャパン 眞島理事長の特別講演の後、消化器内科 上野医師、消化器外科 森永部長、放射線腫瘍科 野中部長、リハビリテーション科 水落部長、坪井看護科長、谷島主任看護師、和田栄養士から、それぞれ専門的な立場からの講演を行いました。また、リハビリテーションセンター職員指導の下、リハビリ体操を実演し、参加者の皆さんに体験していただきました。1時間設けられたパネルディスカッションに向けて、多くの質問を頂き、「専門家からの話は大変わかりやすく有益な情報だった」などの声をいただきました。(総務課)



リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017 横浜



がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、
征圧を目指すチャリティ活動「リレー・フォー・ライフ」

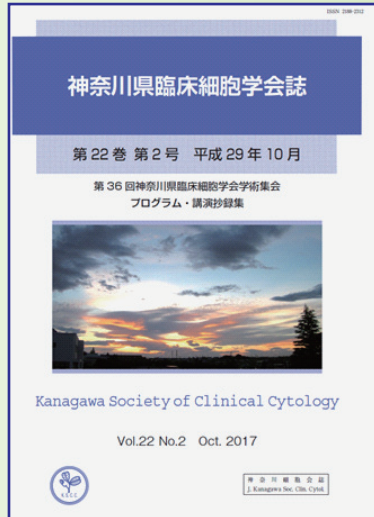
9月30日(土)～10月1日(日)午前にかけて、みなとみらいの臨港パーク芝生広場でリレー・フォー・ライフ横浜が開催されました。天候に恵まれ、中学生のブラスバンドの参加もあり、海に近い会場はとてにぎわっていました。がんセンターからも「チーム神奈川県立がんセンター」として総務課と患者支援センター、丹下局長はじめ看護局を中心に約20名と子供たちも数名参加しました。大川病院長、金森先生、酒井先生も来場されました。がんセンターからは51,198円の募金を寄付しました。(患者支援センター)



第 36 回

神奈川県臨床細胞学会学術集会を終えて

病理診断科部長 横瀬 智之



平成 29 年 10 月 7 日 (土) に表題の学術集会が開催されました。実務として細胞診断に携わる、細胞検査士を含む臨床検査技師、婦人科を初めとする臨床医、病理医ら 188 名が集まりました。前日からの雨も会の始まる昼頃には上がり、主催者は安堵いたしました。講演は一般演題、スライドカンファレンス、教育講演、教育セミナーからなり、来年にも始まる multiplex 検査への細胞検体の応用、その検査のために施設要件となるであろう ISO15189 の解説、並びに特別講演「組織細胞化学的シグナルの適正評価」により細胞、組織の適切な取扱い方を伺いました。未来の細胞診断に少なからず寄与する集会となっていれば幸いです。

血液疾患の患者さんのための講演会・患者交流会

7 W 病棟では、白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫などの血液疾患における造血幹細胞移植大量化学療法が行なわれています。

がんセンターでは 2011 年から講演会・患者交流会を行っており今年度で 7 回目の開催となりました。2011 年の立ち上げ当時、「患者さん同士の情報共有と体験を話す場」「患者さん同士のつながり場」を提供することを目的として、血液内科の患者会が発足しました。

これまでの患者交流会では第一部に移植後の合併症やセルフケア、就労に関することなどの講演を看護師やコメディカルを中心に行ってきました。第二部の交流会は、患者・家族を 10 人程度のグループに分け、医療スタッフも交えながら自由に語り合える場を作っています。

参加して下さった方からは「移植を乗り越えた先輩の話が聞けて良かった」「一緒に治療を乗り越えた人とまた会えてよかった」などの声が多数聞かれました。参加したスタッフも元気になった患者さんに会えることを毎年楽しみにしています。これからもより良い患者交流会を目指していきたいと思っています。引き続き皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。(7 W 病棟)



緩和薬物療法認定薬剤師



薬剤科 高橋 篤

緩和薬物療法認定薬剤師は、2009 年度より発足した認定薬剤師制度で、「緩和薬物療法に貢献できる薬剤師」として、日本緩和医療薬学会によって認定されています。認定薬剤師数は、全国 595 名（2017 年 4 月）の薬剤師が認定を受けており、当センターでは薬剤師 1 名が認定を受けています。

当センターでは緩和ケアチームの一員として、チームの医師や看護師など他職種と連携し、患者さんの緩和医療に関わっています。カンファレンスやチームラウンドに参加し、医師や看護師への情報提供や提案・服用薬剤の把握・飲み合わせの確認・効果や副作用の確認などや、必要に応じて服薬指導を行ったり、各診療科担当薬剤師への情報提供なども行なっています。

今後も、抗がん剤の副作用や痛みなど、少しでも患者さんの症状を和らげることができるよう関わっていきたいと思います。また、院内の麻薬など緩和医療に用いる薬剤をより適切に使用できる取り組みを行なえればと思います。

★ボランティア会 ランパス★ による 12月～2月 木曜ミニコンサート予定表

午後 2 時～約 30 分
2 階ラウンジにて

- 12月 7日 ミュージックベル (あんさんぶる・カリオン)
- 12月 14日 クリスマスコンサート (2時～3時)
声 楽 (三縄 みどり)
アンサンブル (アンサンブル★テタール)
- 12月 21日 声 楽 (中野 亜維里)
ピアノ (青山 瑠美子)
- 1月 18日 ビオラ・ピアノ (マリエリカ)
- 1月 25日 琴 (小谷 恵子)
フルート (川添 久美子)
- 2月 1日 シャンソン (小池 薫)
- 2月 8日 声 楽 (鈴木 沙喜代)
- 2月 15日 シャンソン (美山 容子)
- 2月 22日 800 回記念コンサート (2時～2時45分)
声 楽 (福井 早枝子)
ピアノ (鮫島 明子)

平成29年度
(8月～10月)
1日平均患者数

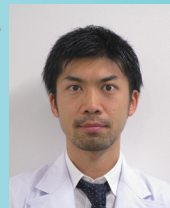
区分	8月	9月	10月
入院	353.9	342.8	349.6
外来	974.7	997.8	1003.7

(単位:人)

新任医師の紹介 よろしくお願ひします

呼吸器内科

医師 柴田 祐司



師走に入り慌ただしい日々が続いていますが、来年度の診療報酬改定を前に、各種団体と厚労省・財務省との交渉も白熱化してきました。地域で医療を支える病医院の重要性が増している中で、当センターでは専門的かつ高度ながん医療を行うとともに、患者さんが通院に便利なクリニックの先生方との「二人主治医制」を推進しています。かかりつけ医の先生方には当センターの最新情報を、病院ホームページや診療科案内などを通じて伝えてまいりますので、引き続きご支援をお願い申し上げます。(企画情報部長 金森平和)

編集・発行：神奈川県立がんセンター 企画調査室

〒241-8515 横浜市旭区中尾 2-3-2

TEL 045-520-2222 (代表)

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/>

